

こわい本、ぞろぞろ

暑い夏はやっぱりホラーでしょ！

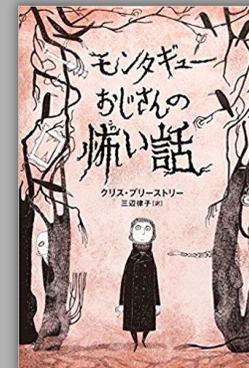
そんなあなたに贈るこわい本の特集です

「こわい」って、いろんな種類がありますね…



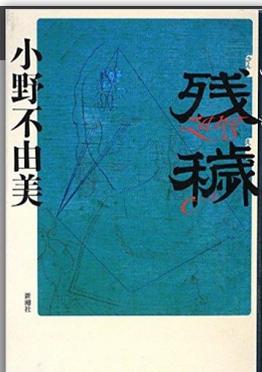
「六番目の小夜子」
恩田陸 / 著 (2017年直木賞受賞作家)
新潮文庫

転校の高校では十数年間にわたり、奇妙なゲームが受け継がれていた。三年に一度、サヨコと呼ばれる生徒が見えざる手によって選ばれるのだ。そして今年、「六番目のサヨコ」が誕生する年だった。



「モンタギューおじさんの怖い話」
クリス・プリーストリー / 作
三辺 律子 / 訳 理論社

怖い話が聞きたくて、森はずれのモンタギューおじさんの屋敷に通うエドガー少年。開かずのドア、悪魔の彫刻、砂漠をさまよう精霊…。こわくて不思議なお話が満載です。

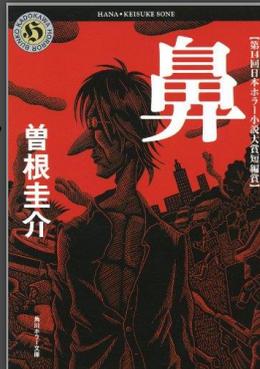
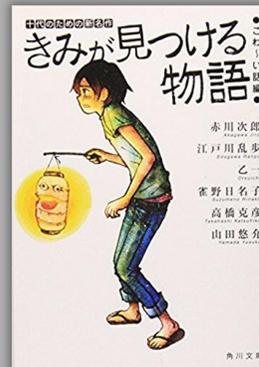


「残穢」
小野不由美 / 著 新潮社

この家は、どこかおかしい。転居したばかりの部屋で、何かを畳を擦る音が聞こえ、背後には気配が。怨みを伴う死は「穢(けが)れ」となり、感染は拡大するという――。

「きみが見つける物語」
こわ〜い話編
株式会社KADOKAWA

放課後誰もいなくなった教室、夜中の肝試し。都市伝説や怪談――。赤川次郎、江戸川乱歩、乙一、雀野日名子、高橋克彦、山田悠介の6人が、さまざまな手法であなたを怖がらせます。



「鼻」
曾根圭介 / 著
株式会社KADOKAWA

人間がテングとブタの二種類に分かれた世界で、鼻を持つテングはブタに迫害されている。外科医の「私」は、テングたちを救うべく、違法とされるブタへの転換手術を決意するが…。

「竜が最後に帰る場所」
恒川光太郎 / 著 講談社

古く湿った漁村から、大都市の片隅、古代の南の島へと予想外の展開を繰り広げながら飛翔する五つの物語。今、信じている全ては嘘っぱちなかもしれない。

